



社団法人

海外と文化を交流する会

(社)海外と文化を交流する会会報

2004年6月発行(3ヵ月1回発行)

第23号

”知と心”の繋がりに文化の原点を求めて

日本を理解し日本で学ぶ留学生への支援 貧しい国々での医療活動を支援 各国大使館との協力などによる文化講演会の主催

事務局 〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-27-6 パイナル内 TEL&FAX 03-3370-7654

巻頭詩

あいさつ

まど・みちお (詩人・児童文学者)

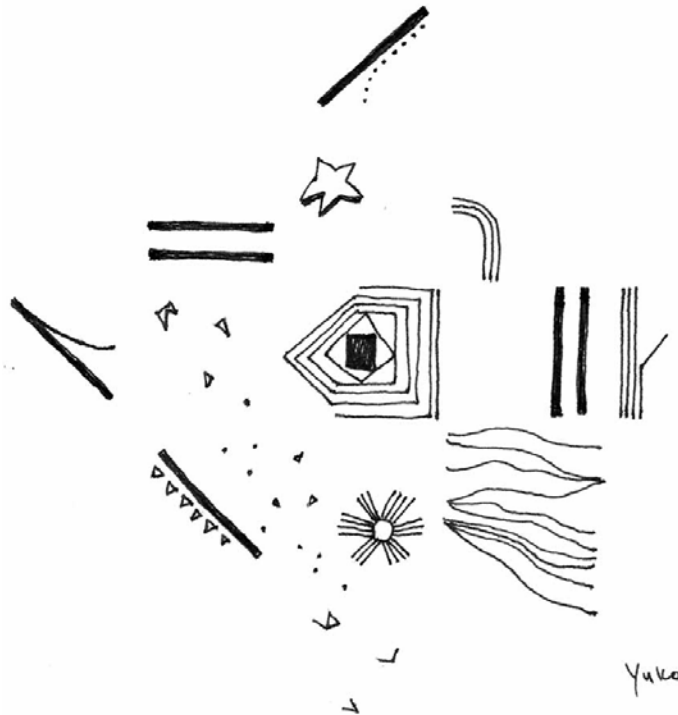
まど・みちお：明治42年山口県生まれ。台北工業卒。国際的な評価も高く、「アンデルセン賞」その他数多くの賞を受賞。著書に「ぞうさん」(ぞうさん ぞうさん お鼻が長いのね.....)や、「まど・みちお詩集」「宇宙のうた」ほか多数。動物に関する詩20編は美智子皇后が英訳するなど、話題になりました。掲載の詩は、作者の快諾を得て転載しています。

あいてを どうとも

いえないから

てんきを ほめたり

けなしたり



寄稿

ゴミから見た日本

劉志興 (LOW CHEE SING・マレーシア出身・立教大学観光学部観光学科)

劉さんは、社団法人海外と文化を交流する会がサポートしている海外からの留学生のひとりです。とても気持ちのいい、さわやかな青年が、日本での留学生生活をこのように送っています。

2000年4月4日、当時「あいうえお」さえ分からなかった私は、シンガポール航空でマレーシアから日本へとやって来た。そうして、私の日本での5年間にわたる留学生活が始まるうとしていた。

私費で留学をする場合、来日する以前に、その大変さや厳しさを十分に自覚しておかなければならない。日本語学校の1年間を除いて、大学生活4年間の生活費を自分で稼ぎ、さらに学費も自分の力で納めなければならない。経済援助や貯蓄のない私にとって、アジアで一番の経済強国と言われる日本で生活を送ることは非常に苦しく、多くの日本人大学生のように部活動に所属したり、合宿に行ったりという多彩な大学生活を送ることは困難である。

日本へ来た目的は勉強をすることであり、大変ではあるが、働きながら勉強をするしかない。決して貯金をする為に来日したのではないが、経済的な問題を解決する為、大学1年から3年までの3年間は、年に春休みと夏休みを合わせた4ヶ月間、品川区と渋谷区のゴミ収集補助の仕事をしてきた。多くの日本人大学生からすれば、汚くて考えられないアルバイトかもしれないが、私には大変貴重な経験であった。仕事期間中はゴミ収集車で様々な場所(ゴミ集積箇所)を回り、数多くの日本人の社員や地域の住民と言葉を交わしたことで、国際交流を図ることができ、教科書には書かれていないその地域の事情や諺を耳にすることができた。

日本は単一民族国家であるが、同じ日本人であっても実に様々な人間がいると日頃から感じている。最も印象に残っているのは、やはり地域住民の温かさに触れた時である。ゴミ収集者にとって1年の中で一番辛い時期は、夏季に違いないと思う。猛暑の中でゴミを収集するのは非常に大変なことで、いつ倒れてもおかしくない状況である。ある時、私がとても驚いたことは、ある住民の方、中でも特に優しく接してくれる年配の主婦達は、ゴミ収集車が着く前に、既にゴミ集積場の前で待っており、私達ゴミ収集者がトラックから降りた途端に笑顔で腰を曲げ、「暑い中、ご苦労様です」と声をかけて下さったことだ。それだけではなく、夏季の間ほぼ毎日、住民の方々から冷たいジュース又は栄養剤を頂くことができたのである。ジュースを渡して頂いた瞬間は、本当に深い感動を覚えたと共に、何よりも主婦達の親切な笑顔に仕事の辛さを忘れさせられ、一遍にゴミ収集の仕事が好きになったのであった。そして、日本人の持つ正しい礼節や礼儀、素晴らしい教養や価値観に触れることができたのである。

残念なのは、正しい礼儀や教養を持つのは年上の方々に限られており、多くの若者はそうでもないという事実を自分の目で確かめたことだ。偶に代々木、渋谷、原宿、新宿周辺の地域と品川のゴミ収集箇所に分配されると、予備校や専門学校に通う多くの若者と若い会社員を見か

けるが、そこではゴミを収集する際に側を通る若者と若い社員が、「なんだぁ...臭いよー」と堂々と口に出してくる場面に何度も会った。ゴミを収集している私達の目の前で堂々と臭いと言うのであれば、あなた達はこれから二度とゴミを出さないで欲しいと私は固く思っている。こういう若者達は深く反省すべきである。

去年の夏に、ある幼稚園の前に置かれたゴミを収集する際には、30代くらいの母親が私を目の前にして5、6歳の息子に対しこんなことを言った。「くん、勉強を頑張らないと将来はあの人たちのように、こんな仕事しかできないよ、分かった?」。この言葉を耳にした瞬間、私はこの女性に対して本当に助言してあげたい気持ちで一杯になった。親として自分の子供に正しい価値観、礼儀、マナーを教えなければ、子供は将来確実に悪い価値観を身に付け、やがて大人になった時に親を馬鹿にするような親不孝者となる。そして、自分の欲求だけを追求し、自分にとって都合の良いような人生を生きることしかできない人間になってしまうであろうと私はそう思っている。

ゴミ収集の仕事は、ある意味、警察や消防隊のような規律部隊であると私は感じている。ゴミ収集者は、大雨の日でも台風の日でも猛暑の日でも休まずにゴミを収集しに行かなければならない。ゴミ収集者の社会的地位は高くないが、高い勤勉性や規律を備えている彼らは、他の多くのエリート達以上に尊敬されるべきだと私は思っている。

ゴミ収集の仕事を通じて、教科書などには載っていない日本の現代社会を学ぶと共に、社会人になる前の非常に良い経験を積むことができた。この経験を、今後の自分の人生にも役立てていきたいと思っている。

会からの報告&お知らせ&お願い

秋 11 月 20 日のコンサートはバイオリンの川島成道さん

2004 年秋のチャリティコンサートは、「奇跡のバイオリニスト、天使のバイオリン・川島成道さん」に出演をお願いし、快諾をいただきました。欧米マスコミに「気絶しそ うに美しい音色」と評される、世界的なバイオリン奏者です。ほかの出演は東京ハルモ ニア室内オーケストラ、飯靖子(チェンバロ・パイプオルガン)の総勢 11 名。

会場：東京・渋谷「青山学院大学ガウチャー記念礼拝堂」

日時：11 月 20 日(土曜日) 2 時開演

曲目：ヴィヴァルディ「四季」他

会費：5,000 円(前売り 4,000 円)

お問い合わせ・お申し込み：海外と文化を交流する会

・&FAX03-3370-6786(午後 6 時～ 9 時・田口)

E-mail : jimukyoku@kaigai -bunka.org

予約：郵便振替「(社)海外と文化を交流する会 0130-2-366249」にお名前・ご住所を明記していただければ、チケットをお届けします。

会員の皆さまにお願いです。このチャリティコンサートのチラシ & FAX 申込書（同封のものです）をいきつけのレストラン、各地の役所出張所、喫茶店、レコードショップ に置いてもらえるようにご依頼くださいませ。事務局までご一報くだされば、お送りいたします。

つどい 「21 世紀を語ろう」

有意義に話をしたい.....これからの日本の進むべき道を探ることを目的として始められたこの「つどい」は、2004 年 7 月 27 日、東京・銀座の銀座教会で 18:00～20:30 に開かれます。ことし 3 回目になります。軽食付きの会費は 1,000 円です。今後の予定は会報としてホームページをご参照ください。事務局へ e-mail でもお伝えできるかと思えます。

つどい 「留学生との交流」そして「懸賞作文授与式」

3 月 27 日、千代田区のレストランで会員、会友、35 周年記念懸賞作文入賞者、支援の留学生、日本人学生が 40 名集まりました。表記のような会合です。とくに懸賞作文入賞者 8 名のうち 7 名が、遠くは京都から参加してくれました。

留学生と日本の若者を結ぶ交流の意義深いことを、今回の募集作文を通して痛感している海外と文化を交流する会として、今回の「つどい」とメインテーマは、「海外と文化を交流する会はどのような支援ができるのか」でした。これから着々と実施していきたいと考えています。

次回は秋に予定しています。「キッチン交流と対話のつどい」をテーマとしていきます。お楽しみに。場所・日時は決まり次第、お知らせします。お問い合わせは、事務局まで FAX か e-mail でどうぞ。ホームページでも発表します。

寄付をいただきました

次の方々から当会へ寄付をいただきました。ありがとうございました。有意義に遣わせていただきます。

本田朋子さんから留学生にと商品券

平成 16 年度総会が行われました

平成 16 年 5 月 18 日、午後 4 時 30 分～5 時 30 分、社団法人海外と文化を交流する会の総会が行われました。

1. 平成 15 年度事業報告、同決算報告

議長の指名により、専務理事が配布資料（下記）に基づき説明を行い、採決の結果全員一致で承認された。決算書によれば、平成 15 年度は創立 35 周年に当たり、記念事業の出費がかなりあったが、当初予想されたより多く次年度に繰り越すことができた。

平成 15 年度事業報告書（自 平成 15 年 4 月 1 日 至 平成 16 年 3 月 31 日）

1. “つどい”（定款 4 条 2 項による）

つどい 【21 世紀を考える】

室井徹衛会長が戦争体験をはじめ、80 余年のご生活を通して培われた様々なことを伺うことから、21 世紀に生きる意味を考えることをめざし、7 月、11 月、1 月、2 月の 4 回、有意義な時を持った。

つどい 【留学生との交流】

文化的に異なった背景を持つ留学生との交流は、留学生にとっても当会の会員にとっても有意義であり、実施の希望も多かったが、忙しい留学生との日時の設定が難しく、3 月に当会の創立 35 周年記念事業の一つである懸賞論文の授賞式をかねて行った。日本人学生の参加が少なかったことは残念であったが、留学生と交流する上で有意義な意見を聞くことができ、今後の活動に反映させたいと考えている。

つどい 【その他】

今年度は特別な企画の提案がなく、実施できなかったことは残念であった。

2. 創立 35 周年記念事業（定款 4 条 6 項による）

創立 35 周年当会を迎えるに当たり、下記の記念事業を行った。

創立 35 周年記念祝会 2003 年 5 月 24 日（土）於・霞ヶ関三井クラブ

留学生を交え、幅広い年齢層の 100 名を超える参加者があった。東京都盲学校校長会副会長を代表としてセンサー付き輪投げの贈呈式を行い、ギターと琴、三味線による演奏、お茶席等、和やかなひとときで、参加者に喜ばれた。

視覚障害者施設（全国に 73 ある）に視覚障害者用センサーのついた輪投げを 100 セット寄贈した。

全国の主な通信社・新聞マスコミ・大学を通して、また、ホームページを通して在日留学生を対象に「地球村で生き残るために これからの日本に期待すること」と題する作文を募集し、45 編の応募作文から金賞 1 編（賞金 30 万円）、銀賞 7 編（賞金 各 10 万円）を選び、3 月 27 日贈呈式を行った。選考には日野原重明氏（聖路加国際病院名誉院長）、嚮田隆史氏（著述家、元朝日新聞論説委員）、松谷孝征氏（手塚プロダクション代表取締役社長）、大谷俊介氏（電気通信大学レーザー研究所教授、当会理事）が当たった。（最終選考 2004 年 1 月 27 日）入選作は小冊子にまとめマスコミ各社、関係者に配布した他、ホームページに掲載した。

3. 在日留学生の奨励金による支援（定款 4 条 6 項による）

昨年に引き続き、ポインドグルン金花（食品栄養学・中国内モンゴル出身）、劉志興（觀光学・マレーシア出身）を支援するのに加え、新たに金恩晶（経済学・韓国出身）、ジ

エフリー ワマ（経営学・パプア・ニューギニア出身）、丁顔氷（国際観光学・中国出身）、田蕾（社会学・中国出身）の4名、計6名の留学生を支援し、交流することとなった。

4. 宮崎亮医師支援（定款4条6項による）

先年度同様、宮崎亮医師の活動を支援した。

5. 会報の発行（定款4条6項による）

6月、9月、12月、3月の4回発行し、会の活動を報告すると共に、会員相互の交流を図った。

6. 国際交流事業（定款4条2項による）

1976年にオーストラリアに寄贈した日本画25点の再活用の方法を探したが、さまざまな困難な状況があり、実現可能な方法を見つけるには至らなかった。

7. 鯉沼廣行、坂本真理の横笛によるチャリティーコンサート（定款4条6項による）

11月22日、かねてより再演の希望が多かった横笛によるチャリティーコンサートを明治神宮桃林荘において行い、会員、協力者に当会の活動状況を報告しご理解をいただく貴重な場となったと共に、つどい、創立35周年事業、在日留学生支援、宮崎医師、その他の事業費の一助とすることができた。

8. 東京ハルモニア室内オーケストラ支援（定款4条6項による）

演奏ばかりでなく、種類の文化活動でも高く評価されているため、会費を納め、コンサートに協力した。

9. 日本テレマン協会定期演奏会協賛（定款4条6項による）

演奏ばかりでなく、種類の文化活動でも高く評価されているため、東京における定期コンサートに協力した。

平成15年度 収支計算書 平成15年4月1日～平成16年3月31日

収入の部

単位（円）

科目	予算額	決算額	予算との対比	備考
1. 会員収入	(625,000)	(535,000)	(90,000)	
正会員会費	575,000	535,000	40,000	14年度分 2名 15 " 54 "
賛助会員会費	50,000	0	50,000	
2. 事業収入	(1,170,000)	(1,290,788)	(120,788)	
つどい	200,000	36,298	163,702	つどい 4回
創立35周年記念事業	250,000	603,000	353,000	記念会費
留学生奨励金	0	0	0	
宮崎亮医師支援	0	0	0	
会報発行	0	0	0	
国際交流事業	0	0	0	
講演会・音楽会	720,000	651,490	68,510	横笛
東京ハルモニア室内	0	0		
オーケストラ支援	0	0		日本テレマン協会支援

その他	0	0	
3. 寄付金収入	(50,000)	(169,000)	(119,000)
4. 受託金収入	(0)	(0)	(0)
5. 資産収入	(1,000)	(41)	(959)
当期収入合計 (A)	1,846,000	1,994,829	148,829
前年度繰越収支差額	5,851,291	5,851,291	0
収入合計 (B)	7,697,291	7,846,120	148,829

支出の部				単位 : 円
科目	予算額	決算額	予算との対比	備考
1 事業費	(3,969,000)	(3,764,254)	(204,746)	
つどい	300,000	44,809	255,191	
創立 35 周年記念事業	2,500,000	2,559,440	59,440	祝会費 710,377 輪投げ 369,620 懸賞 1,387,138 授与式 92,305 (内 788 円は来期支出)
留学生奨励金	500,000	506,000	6,000	6 名
宮崎医師支援	100,000	100,000	0	
会報発行	134,000	190,630	56,630	4 回発行
国際交流事業	50,000	0	50,000	
講演会・音楽会	335,000	338,375	3,375	横笛
東京ハルモニア室内	0	25,000	25,000	
オーケストラ支援	0	0	0	日本テレマン協会支
その他	50,000	0	50,000	
2 事務費	(1,430,000)	(877,942)	(552,058)	
法人都民税	70,000	70,000	0	
役員報酬	0	0	0	
人件費	300,000	145,000	155,000	
会議費	200,000	108,910	91,090	
旅費・交通費	200,000	0	200,000	
通信費	150,000	106,384	43,616	
事務所費	(510,000)	(447,648)	(62,352)	
家賃	0	0	0	
水道光熱費	0	0	0	
図書・印刷	50,000	12,290	37,710	
消耗品費	60,000	38,439	21,561	
交際費	120,000	135,130	15,130	
HP 開設費	180,000	177,094	2,906	

雑費	100,000	84,695	15,305
3 予備費	(100,000)	(0)	(100,000)
当期支出合計 (C)	5,499,000	4,642,196	856,804
当期収支差額(A)-(C)	3,653,000	2,647,367	1,005,633
次期繰越収支差額	2,198,291	3,203,924	1,005,633
(B) - (C)			
支 出 合 計	7,697,291	7,846,120	148,829

監査報告書

私は、社団法人 海外と文化を交流する会 の平成 15 年度一般会計の決算書類（予算額決算対照収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録）につき、監査を実施した。

監査の結果、業務の執行は法令に従い誠実に行われており、上記決算書類はいずれも適正にして正確であることを認めた。

平成 16 年 5 月 10 日 社団法人 海外と文化を交流する会 監事 角谷 秀雄

2 . 平成 16 年度事業計画案、同予算案

議長の指名により、専務理事が配布資料（下記）に基づき説明を行い、採決の結果全員一致で承認された。今後、昨年度懸賞論文に応募した留学生も交えた交流が期待される。また、今まで多くの事業に時間を取られ、考える余裕もなく過ぎてしまったが、顧問からのアドバイスもあり、オーストラリアに寄贈した日本画の再活用についても進展が期待される。そのため、費用の準備の必要性も考えられる。

平成 16 年度事業計画書 （自 平成 16 年 4 月 1 日 至 平成 17 年 3 月 31 日

1 . “つどい”（定款 4 条 2 項による）

(a) “つどい” 【21 世紀を語ろうよ】

昨年度に続き、これからの日本の進むべき道を探ることを目的とする“つどい”を 4 回程度開催する。

(b) “つどい” 【留学生との交流】

会員の希望にこたえ、当会が支援している留学生を中心に交流の機会を持ち、相互理解を深める。

(c) “つどい” は会員からの新たな提案を待つ。

2 . 創立 35 周年記念事業（定款 4 条 6 項による）

創立 35 周年事業の一環として昨年、「地球村で生き残るために これからの日本に期すること」という題で留学生より募集した作文の入選作を小冊子にし、各メディア及び会員に配布する。

3 . 在日留学生への支援奨励金（定款 4 条 6 項による）

昨年に引続き 3 名以上の留学生に奨励金を支給する。

4 . 宮崎亮医師支援（定款 4 条 6 項による）

引続き宮崎医師の活動を支援する。当会では「文化」を芸術、教育、健康がバランスよく組み合わさったものと理解している。従って宮崎医師を支援することが厚生省関連の事業であるとはみなしていない。

5. 会報の発行（定款4条6項による）

年4回会報の発行を行う。

6. 国際交流事業（定款4条2項による）

引続き1976年にオーストラリアに寄贈した日本画巨匠による25点の作品の再利用の道を探っていく。

7. 川畠成道氏のバイオリンによるチャリティーコンサートの開催（定款4条6項による）

川畠成道氏、東京ハルモニア室内オーケストラ、飯靖子氏によるジョイントコンサートにより、会の活動の報告とPRの機会とすると同時に、事業資金の一助とする。（11月）

8. 東京ハルモニア室内オーケストラ支援（定款4条6項による）

演奏ばかりでなく、種々の文化活動でも高く評価されていることを認め、支援する。

9. 日本テレマン協会支援（定款4条6項による）

演奏ばかりでなく、種々の文化活動でも高く評価されているため、東京における演奏活動に協力する。

平成16年度 収支計算書 平成16年4月1日～平成17年3月31日

収入の部

単位（円）

科目	予算額	決算額	予算との対比	備考
1. 会員収入	(660,000)	(625,000)	(35,000)	
正会員会費	610,000	575,000	35,000	10,000×58名 5,000×6名
賛助会員会費	50,000	50,000	0	
2. 事業収入	(3,880,000)	(1,170,788)	(1,710,000)	
つどい	80,000	200,000	120,000	1. 21世紀を語ろうよ 2. 留学生との交流 3. その他
国際交流事業	0	0	0	
創立35周年記念事業	0	250,000	250,000	
留学生奨励金	0	0	0	
宮崎亮医師支援	0	0	0	
会報発行	0	0	0	
講演会・音楽会	2,800,000	720,000	1,080,000	秋のコンサート (4,000円×700枚)
東京ハルモニア室内 オーケストラ支援	0	0	0	0
その他	0	0	0	日本テレマン協会支援

3. 寄付金収入	(50,000)	(50,000)	0
4. 受託金収入	(0)	(0)	(0)
5. 資産収入	(1,000)	(1,000)	(0)
当期収入合計 (A)	3,591,000	1,846,000	1,745,000
前年度繰越収支差額	3,204,712	5,851,291	2,646,579
収入合計 (B)	6,795,712	7,697,291	781,579

支出の部				単位 : 円
科 目	予算額	決算額	予算との対比	備 考
1 事業費	(2,376,000)	(3,969,000)	(1,593,000)	
つどい	200,000	300,000	100,000	1.21 世紀を語ろうよ 4回
				2.留学生との交流 3回 その他 1回
国際交流事業	50,000	50,000	0	
創立35周年記念事業	0	2,500,000	2,500,000	論文冊子作成費
留学生奨励金	400,000	500,000	100,000	
宮崎医師支援	100,000	100,000	0	
会報発行	146,000	134,000	12,000	4回発行
講演会・音楽会	1,430,000	335,000	1,095,000	秋のコンサート (出演者 800,000) (会場費 500,000) (印刷費 13,000)
東京ハルモニア室内 オーケストラ支援	0	0	0	日本テレマン協会支 援
その他	50,000	50,000	0	
2 事務費	(1,110,000)	(1,143,000)	(320,000)	
法人住民税	70,000	70,000	0	
役員報酬	0	0	0	
人件費	300,000	300,000	0	(書記 80,000) (会報 50,000) (H.P. 80,000) (経理 60,000) (その他 30,000)
会議費	150,000	200,000	50,000	
旅費・交通費	50,000	200,000	150,000	

通信費	150,000	150,000	0	
事務所費	(390,000)	(510,000)	(120,000)	
家賃	0	0	0	
水道光熱費	0	0	0	
図書・印刷	50,000	50,000	0	
消耗品費	60,000	60,000	0	
交際費	140,000	120,000	20,000	中元・歳暮・他
HP 維持費	100,000	180,000	80,000	維持費・中野氏お礼
雑費	40,000	100,000	60,000	会計監査他
3 予備費	(100,000)	(100,000)		
当期支出合計 (C)	3,586,000	5,499,000	1,913,000	
当期収支差額(A)-(C)	5,000	3,653,000	3,648,000	
次期繰越収支差額	3,209,712	2,198,291	1,011,421	
(B) - (C)				
支 出 合 計	6,795,712	7,697,291	901,579	

3. その他

飯忍理事の退任に伴い、新理事に高楠博氏、本田朋子氏が推薦された。また、顧問に轡田隆史氏、佐藤純一氏が推薦され、採決の結果共に全員一致で承認された。

会費納入のお願い

2004 年度の年会費納入をお願い申し上げます。2002 年度 2003 年度の年会費未納の方は、ぜひともご納入ください。高く評価されている当会の活動は、皆さまのご支援あってこそ なのです。

郵便振替 00130-2-366249 社団法人海外と文化を交流する会
 銀行振込 東京三菱銀行渋谷支店 (普) 2266599 海外と文化を交流する会
 会費 10,000 円 (正会員) 5,000 円 (特別賛助会員) 3,000 円 (学生会員)

海外と文化を交流する会事務局
〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-27-6 ハイビル内
TEL&FAX 03-3370-7654 e-mail:jimukyoku@kaigai-bunka.org